

ヘルメットの役目は、万一の衝撃から人の頭を護ることです。
 だからこそ、大きなエネルギーの衝撃に打たれる可能性もある
 ヘルメット上方の保護範囲にあっては、
 特に、衝撃の一部をすべらせて逃がす特性が、
 衝撃吸収性に並び、頭を護る上で大切な要件になります。
 アライは長い歴史の中を一貫して、
 この範囲での帽体は“丸く、滑らか、そして丈夫”
 つくるよう、心掛けてきました。

VASの VARIABLE AXIS SYSTEM 使命

かわす性能を進化させる
世界初のシールドシステム《ヴァス》。



しかしながら、回動により開閉が可能な構造のシールドを備えるヘルメットの場合、保護範囲上方を丸く、滑らかにする理想の前に、アライにあっても制約の壁がありました。

なぜならば、開閉のために回動するシールド回軸の中心は、ヘルメット開口部の後方、且つ、上方に位置するのは必然だったからです。それは保護範囲の内側、左右両側の下限より数十ミリ上方にあたります。

シールドは回動と着脱を自在にする機構を備えるシステムにより、帽体に取り付けられますが、滑らかさを保つために、帽体のその部位には取り付けのための段差やくぼみ等を設ける必要があります。これは曲面の非連続性を意味するのですが、既存のシールドシステムでは、その位置は、保護範囲の内側にきます。段差等はできる限り小さくするよう心がけても、この部分についてはアライも例外としてきました。

VASは保護範囲から、段差やくぼみの様な滑らかさを阻害する要因をできる限り排除を目的に、アライが生み出したシールド取り付けの新しい機構。ヘルメット本来の使命を見据え、更なる上を目指す新次元のカタチです。



万一の衝撃から着用者の頭を護ることについて、やらないよりやった方が良いことを一つ一つ、長い歴史を通じて積み上げてきたのがアライです。今回のVASも、頭を護る可能性をさらに高めようとするアライの終わりない挑戦のひとつなのです。

VAS搭載 RX-7X の説明ムービーは[こちらから](#)

